



拝啓

春寒の候、檀信徒の皆様、ますますご清祥の事と存じます。
さて、本誓寺春季彼岸施餓鬼会大法要を左記の通り厳修いたします。
有縁の皆様にご真心をこめて過去現在に受けた御恩に対して報恩感謝され、
本誓寺春季彼岸施餓鬼会大法要に是非ご参詣くださいますようお願い申し上げます。

合掌

春季彼岸施餓鬼会大法要のご案内

- 一、令和八年三月二十二日(日) 午前10時より
- 一、塔婆回向申し込みについて
法要当日までに塔婆を準備する関係上、別途用紙にご記入の上、三月十七日(火)までに本誓寺必着の程、
宜しくお願い申し上げます。
- 一、御精算について
法要当日、塔婆と引替えにてお願い致します。

※本誓寺護寺のために維持費のお支払いをお願いします。
※墓地管理費も集金致します。



〒516-0015 伊勢市久世戸町96
本誓寺
電話 0596-28-6905
携帯 090-7617-1466

本誓寺 2026年度 行事日程

3月22日(日)	春季彼岸会	午前10時
5月24日(日)	花祭り・永代経	午前9時
8月11日(火)祝	盆施餓鬼会	午前10時
8月15日(土)	精霊送り	午後6時
9月20日(日)	秋季彼岸会	午前10時
12月13日(日)	成道会・五重作礼併修	午前9時



2025年12月14日(日)
成道会、五重作礼
説法
西林寺
村上 眞考上人

春彼岸の由来

春のお彼岸は、春分の日を中日とした前後三日間の計七日間をいいます。

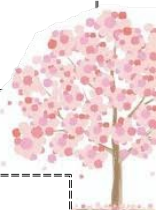
『彼岸』とは、此岸(しがん)迷いの世界に対する「悟りの世界」のことです。このことから、私たちの生きる世界(此岸)に対し、極楽浄土を目指していることもあります。

経典には、極楽浄土ははるか西の彼方(あなた)にあると示されています。そのため、夕日が真西に沈む春の日、秋の日こそが極楽往生の願いを確かなものにする日として最も適している、このように考えられたことに基づいた行事が「お彼岸」なのです。

ともすれば、私たちは、極楽往生が叶う不安に思ったり、亡くなった方に対する想いを忘れていく時もあるでしょう。

そんな、私たちにとってお彼岸とは自身の極楽浄土への往生を願うとともに、亡き方へ真心を捧げることのできる大切な機会です。

あなた自身の、そしてすべての人の極楽往生を願い、また、先立つた方々への回向のため、共に念仏を唱えましょう。



成道会・五重作札

昨年十二月十四日(日)、当山において成道会ならび五重作札の法要を厳修いたしました。

当日は、浄土寺の村上眞考上人をお迎えし、ありがたいご説法を賜りました。村上眞考上人はとてもお話上手な和尚様で、仏さまのお教えを分かりやすく、時に笑いも交えながらお話しください、聞いて、笑って、念佛して帰る一時となりました。

ただ、ご参詣の人数が少なかったことは少し寂しく、せっかくの尊いご縁を十分に分かち合えなかったようにも感じられました。

次の機会には、是非もつと多くの檀信徒の皆さまとご一緒できればとの思いを新たにしております。

私たちは日々の暮らしの中で忙しさに追われがちですが、一日一度、仏様と向き合う時間を持つことが、心を整え、日々を穏やかに過ごす力になるのではないのでしょうか。

念佛は、決して難しいものではありません。念佛ひとつで、心が軽くなる朝を、どうぞ多くの方に味わっていただきたいと願っております。

次回は、より多くの皆さまと念佛をお唱えできるご縁となりますよう、心よりお待ち申し上げます。



あいさつ

新年、あけましておめでとうございます。皆さまには、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新しい年を迎えたと思っておりますと、早くも春彼岸の時節となりました。

昔から「光陰矢の如し」と申します。唐の時代の詩人・李益の言葉とされ、月日の流れの早さを表したことでわざであります。

日々の暮らしの中で、時の過ぎゆく早さを感じることも多いのではないのでしょうか。仏教では「諸行無常」と申しますように、この世のすべてのものは移ろいゆくものであり、私たちの命もまた例外ではありません。

法然上人は、そのような無常の世を生きる私たちに、「露の身」というお言葉をもって、人の一生のはかなさをお示しになりました。花に宿った朝露が、ほどなく消えてしまうように、私たちの命もまた、いつ失われるか分からない「露の身」であります。法然上人は、「露の身はここかしこに消えぬとも心はおなし花のうてなぞ」とお詠みになっております。

私たちは露のように儂い存在ではありませんが、阿弥陀仏の本願により、念仏申す身として救われる身であります。

例えこの身は消えゆくとしても、心は同じ浄土の花の台にあり、ともに浄土でお会いしましょう」と、阿弥陀仏は私たちをお迎えくださいます。

本年も、ご先祖さまへの感謝の心を大切に、日々のお念仏を通して阿弥陀仏のご恩を味わいながら、「心は同じ花のうてなぞ」という法然上人のお言葉を胸に、歩んでまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

住職